

Performing Arts Review (14)

“皆さん ありがとう しあわせになります”
山口百恵さん「さよならの向こう側」

平成 21 年 1 月 17 日 中 野 希 也

私は本シリーズ第一回を「アンソロジー山口百恵さん」と題して「SAKURA」39号（2004年3月発行）に投稿し「何故私たちは山口百恵さんを忘れられないだろうか」を考えた。驚くことに、その後5年間、彼女の光芒は衰えるどころか一層煌きを増した。新しい証言をも加え、もう一度本テーマに迫る。まず、最近の記事をみてみよう。

2006年10月9日 AERA（朝日新聞社発行週刊誌） 巻頭 「昭和の時代」
「10月5日山口百恵のファイナルコンサート（1980）」の題字と洋風バーの写真。
路地を入ると、米兵が集まるバー、ドル紙幣と英語が飛び交う。ここはどこ？

日本武道館のステージで彼女は語り始めた。
「いつか、私があなたの思い出になれたなら、思い出して下さい。思い出は消えないから」
もう、これっきりですか。
たった八年の芸能生活。なのに、いまでも神話は続く。
ここは横須賀。

2007年10月 週刊朝日 85周年記念「週刊朝日の表紙を飾った昭和の顔」
特集号の表紙は昭和53年6月12日号の山口百恵さん、当時19歳。
次頁の見開きには、長島、三島、王、田中角栄、昭和天皇、美空ひばり等が並ぶ。

2008年10月5日 毎日新聞 「昭和にかえりたいー懐かしいあの風景、あの食べ物、あの音楽…昭和の風物を振り返ります」欄 記事とファイナルコンサートの写真
「昭和を代表するスター、山口百恵さんの引退公演が昭和55年10月5日、日本武道館で行われた。引退は俳優の三浦友和さんと結婚するためで、当時21歳だった。昭和48年に14歳でデビューし、歌手として「横須賀ストーリー」や「プレイバック Part 2」など数々のヒット曲を飛ばし、女優として映画「伊豆の踊り子」やドラマの「赤い迷路」「赤い疑惑」などの「赤い」シリーズなどに出演。一世を風靡した。



引退公演では「私のわがママを許してください……幸せになります」と涙を見せ、約 30 曲を歌い終えた後、ステージにマイクを置いた。引退後は、三浦さんとの間に 2 児をもうけ、主婦としての生活を貫いている。」

デビュー以来 8 年間彼女を撮り続けたカメラマン篠山紀信は、引退時こう述懐した。
「山口百恵」は単に 20 歳の一人の生の女、山口百恵をすでに越えて、この時代の中に存在してしまっている。なにより 70 年代を語る時、山口百恵なしでは語れないという時代の代弁者としての百恵はどこへ行ってしまうのだ。

彼の予兆の通り、「昭和という時代」は百恵さん抜きには語ることはできない。
次のみつつの視点より、あらためて軌跡を辿り私なりの結論をみつきたい。

- 1 テレビのスカウト番組で見出され、わずか八年で芸能界の頂点に達した成長譚。
- 2 極みに達した歌唱力と自ら紡ぐ言葉。
- 3 引退、結婚に至る果敢な行動。

百恵さんをスカウトし、結婚式では、“父親”としてエスコートしたホリプロの堀威夫氏は週刊朝日「昭和からの遺言」（2008 年 5 月）で語った。

彼女は新しいテーマを与えられるたびに、答を出してきました。アイドル路線とはテイストの違う 2 作目の「青い果実」のとき、ドラマ「赤い迷路」に始まる“赤いシリーズ”のとき、「横須賀ストーリー」で転換したとき、すべて百点以上の答だった。といっても、21 歳で引退してしまっただけ。
「結婚を機に家庭に入りたい」と切り出されたときは、我々のマネジメントが、家庭の魅力に勝てなかったという、ある種の敗北感がありました。

ファイナルコンサートの文字通りラストシーンを再現しよう。正面に顔をあげて話しかける。

皆さん、本当にありがとう
私が選んだ結論、とても、わがままな生き方と思いながら、押し通してしまいます
八年間 一緒に歩いてきた皆さんが しあわせになって そう言ってくれる言葉が一番うれしくて…

皆さんの心を裏切らないように 精一杯 さりげなく 生きていきたいと
今…いま、皆さんに“ありがとう”っていう言葉をどれだけ重ねても 私の気持ちには
追いつけないと思います
本当に ほんとうに 私のわがママを許してくれてありがとう…… しあわせになります

最後のステージに立ち武道館の満員の観客に対して自分の気持ちをこれだけ巧みに表現し、しかも澁みなく話すことに驚嘆する。五木寛之は感想をこう記した。

「自分の本当に言いたい気持ちをビシッと言葉に翻訳していく作業があんな年齢でどうしてできるんだろうと思っていた。歌を歌わなくてもすごい人だな。」

「さよならの向こう側」（阿木耀子作詞、宇崎竜童作曲）のイントロが流れる。

♪何億光年 輝く星にも 寿命があると
教えてくれたのは あなたでした

.....

Last song for you, Last song for you
涙をかくし お別れです
Last song for you, Last song for you
いつものように さり気なく
あなたの呼びかけ あなたの喝采
あなたのやさしさ あなたのすべてを
きっと 私 忘れません
うしろ姿 みないでゆきます
Thank you for your kindness
Thank you for your tenderness
Thank you for your smile
Thank you for your love ♪



“ありがとう ありがとう”

♪さよならのかわりに♪

白いドレス、白い髪飾り、白いマイク・・・両手を広げて浮かぶ姿は、文字通り「白鳥」だった。

百恵さんの曲をカバーした歌手たちは、彼女の唄をどう聴いたのだろうか。
つくく♂ 「さよならの向こう側」

百恵さんの楽曲は、その頃の歌謡界の基本概念から完全にかけて離れていました。とにかく、音がかっこよかった。かっこよすぎた。どうやったら、こんな音楽ができるのか？プロになってからも何度も研究しました。一つは宇崎さんの楽曲です。アレンジを含め斬新なスタイルを構築したサウンド。一つは百恵さんの表現力とリズム感、そしてなにより「声」です。声が突き抜ける。メロディ、そして歌。全ての関係者の方々の熱い思いが伝わってくる名曲です。さまざまな方の人生のいろんなシーンで、その方々のBGMとなっている曲だと僕は思うのです。J-POPの先駆者である先輩の名曲を、現代の新しい世代のJ-POPファンに先入観なく聞いてもらいたい！と思い心を込めて歌わせていただきました。

鈴木雅之 「さよならの向こう側」

ステージの中央にマイクを置いて感動的なフィナーレを演出した山口百恵という伝説のディヴァ。その後、表舞台には一度も姿を現さず、素敵な妻として母として、人生を歩んでいる。自分の生き方を貫いている彼女は、まさに理想的とも見える。しかし、彼女の曲は、こうしてそれぞれの解釈で歌い継がれていくんだ。ボーカリストとしてこれ程の喜びはない。その一端を担える事に誇りと感謝を込めて…あのステージの中央に置いたマイクを握りしめる思いで歌ったつもりです。1980年に引退した君へ 1980年にデビューした鈴木雅之より。

ケイコ・リー 「秋桜」

少女と言っていい年頃だった百恵さんが歌う”秋桜”（さだまさし 作詞作曲）をあらためて聴いたとき、すっかりオトナになった私の心の奥底に直球で入ってきて、涙が溢れました。決して「嫁ぎゆく娘」だけのものでなく、母を想うすべての人、そして子を持つ母親たちの涙腺を刺激してやまない、オトナになってこそ判る情緒を豊かに湛えていたのですね。今、これを歌えて幸せです。

辛島美登里 「プレイバック パート2」

イイ女とダメな女の混然を一人の女の人格に納めて歌いこなす百恵さん。
ああ、これはかなわない、と素直に思いました。

中森明菜 「夢先案内人」「愛染橋」「秋桜」「いい日旅立ち」

ただの歌好きの中学生だった私が、自分でもプロとして歌ってみたいと思うようになる、そんな後押しをしてくれたのが百恵さんの歌でした。歌の中で百恵さんは強く、可愛らしく、いじらしく、女性として様々な表情を見せてくれました。そして素敵に生きることも教えてくれました。百恵さんは今も私の憧れなのです。

宇崎竜童 (2007年2月)

あの時代は濃密でした。百恵さんと組んだ何年間かは、それまでやったことのないテーマ、メロディに挑戦し続けました。プロデューサーやディレクターたちと話し合っ、思いもよらない世界を歌にしていきましたから。でも百恵さんは、いつのときでも、いったいいつ寝るんだろうというスケジュールの中でスタジオに現れて、思わず、「そうきたか」とうなるような歌を聴かせてくれる。なるほどね、というレベルの歌手は沢山いましたが、どんな曲を与えても宇崎節ではなくて自分の節にしてしまうのは彼女だけでした。

百恵さんは、15歳の夏、スナック菓子のCFで三浦友和と初共演、同年秋、初の主演映画「伊豆の踊子」で三浦友和と初共演。「三浦さんって目が少年のような人ですね。私のことをやさしく“百恵クン”と呼ぶんですよ」と印象を語った。17歳冬、過労のため5日間入院。友和が赤いバラを持って見舞いにくる。そして21歳春「10月15日をもって芸能界から完全引退」と発表、母の誕生日の11月19日に結婚式を挙げた。

百恵さんは、この間の経緯についてラストコンサート直前に、当時45歳の朝日新聞記者の筑紫哲也に語った。最後のインタビューに彼を指名したのは百恵さん側からだった。昨年11月に亡くなった氏を悼み、「月刊プレイボーイ」(1980年11月)より再録する。合掌。

どうして仕事をやめちゃうんだろう

結婚するということは、ふたりでひとつの生活をつくっていくわけだから、彼の半分に私になるということになるわけでしょ。それだけが全うできればいいという感じであって、その結婚生活にこういう形とか、自分がこういう状態になれることを望むということは、まずないんですよ

要するにあなたは普通願望というべきものが異常に強いんだ。普通願望を迫及していった結果、なんだ、こんなものだったのかと幻滅するようなことがないかなあ
結婚っていうことになると、駆け引きではないと思うんですよ。
やっぱりお互いに一つの運命をかけて、そしてつくっていくものだと思うわ。最終的に、うんと年をとったときに、「ああ、幸せだったわ」って思えばいい。だから別に今から幸せを追っていくということじゃなくていいように思うんですよ

考え方はまともすぎるほどまともだね。そのまともな人が、あまりまともとはいえない世界に飛び込んで、短い年月の間にどうしてここまで来られたのか、その辺が依然としてわからない

結局、誰のために歌っているんだということになってくると思うのですが。突きつめて考えると、本当に自分のためなんですよ。それが、いったい誰のために歌っているのかということがわからなくなってしまうときがあるんですよ。「歌っている」というより「歌わされている」という感覚になっちゃうときに私にも一時期あって、それを乗り越えたときに、「ああ、やっぱり私は自分のために歌っているんだな」と思えるようになったんですよ。それが、阿木・宇崎コンビの「横須賀ストーリー」以後ね
私自身のプロジェクトチームをつくってから変わりました。歌ってというのは、バックバンドと明かりと音響と裏方すべてと調和していかなければ、絶対にステージをやっていけないわけです。

あなたの場合は、スタッフやファンと一緒に、小さいけど濃密な自分の世界をつくったというのじゃなくて、一つの時代のシンボルになった。やっぱり 70 年代という時代が山口百恵を生んだという面があると思う。それがウーマンリブの時代であったことと無関係ではないわけだ。女性の自己主張という一点にしばってみてもね
自己というのは集団ではあり得ないと思うんですよ。大事なのは本人でしょ。自分自身努力するってことの方が必要だと思う。

友和さんのどこがよかったわけ？

そうね、私が無条件に甘えられる人なんですよ。それまでは本当に甘えることが下手で、甘える人もいなかったし。その私が初めて「あ、この人には無条件に甘えちゃっていいんだ」って思えちゃった人なんですよ。こんなにも彼の腕の中にいるときがいちばん心が休まる、そういう感じに私もなれるんだなと発見したときは、すごく驚異だったんですけどね。

三浦友和が百恵さんとの結婚生活を語ったのは、実に 30 年近く経た昨年秋である。

2007 年 11 月朝日新聞 三浦友和インタビュー

奥様が子育てで力を入れていたことはどういうことでしたか？

妻は、毎日毎日、朝、子供を起して弁当を作った。うちの子の学校はずっと給食がなかったから、幼稚園から高校まで何年も毎日続けた。だから子供は母親には文句を言わないはずですよ。

夫婦喧嘩は一度もしたことがないそうですが秘訣は？

ある程度、緊張感をもってお互いを尊重する。何より一緒になったときの気持ちを忘れないことが大切じゃないでしょうか。

こだわりがあるという生き方をしていると思う人は？

「奥さんですね」

これを見て私は、都倉俊一（最初のヒット曲「ひと夏の経験」の作曲家）の言葉を思い出した。

仕事場で会ってちょっと話をしただけで別れたあとに余韻を残す子であった。

「私、不器用ですから、いろんな歌い方ができなくて」が口癖であった。

変わらなくて結構、百恵さんの演じる「ひと夏の経験」の完成である。

百恵さんは、「不器用」というよりも「只管」あるいは「一途」というか、唯々、「切ない」までに、全身全霊を友和に捧げたのではないか。

人口に膾炙したラブ・ストーリーは、貧困、病苦、家同士の相克、第三者の介在など二人を妨げる要因にも拘わらず愛を貫くテーマが中心となっている。それに比べ、「中学校3年のときに出会った男性を好きになり、そして彼のために芸能界トップの地位を何の未練もなく捨て家庭に入る」物語は、何の変哲もなく平凡に見えるかもしれない。当人たちではどうすることもできない環境との対峙という構図ではなく、登場人物は二人だけである。しかし、現代に生きる私たちは、それが決して容易でないことを知っている。

「奇跡」と言ってもいいかもしれない。

私たちは、百恵さんの名前をみるたびに、曲を耳にするたびに、百恵さんのひたむきに真直ぐに人を思う純粋な気持ちを、百恵さん自身が紡いだ純愛物語を繙いているのに違いはない。彼女の瞬間の閃光を思い出しながら。

それは、フィクションではなく私たちが目の当たりにしたノンフィクションである。そしてそれは今も続く。

付記

ファイナルコンサートの様子はこのサイトでご覧下さい。

<http://www.youtube.com/watch?v=fn6eNqwUkgU&feature=related>